

昭和四十年六月十九日招集(第2号)
第二回市議会定例会会議録

館山市議会第二回定例会会議録(第一号)

昭和四十年六月招集

六月十九日(土曜日)

一現在議員三十五名でその氏名次のとおり

| | | | |
|-----|--------|-----|--------|
| 一番 | 吉田 勇治郎 | 二番 | 鈴木 正一郎 |
| 三番 | 小柴 孝 | 四番 | 館石 伝蔵 |
| 五番 | 田中 祿郎 | 六番 | 秋山 大三郎 |
| 七番 | 田村 源治郎 | 八番 | 望月 照正 |
| 九番 | 安西 益男 | 一〇番 | 辻田 実 |
| 一一番 | 石井 正 | 一二番 | 黒川 佐太郎 |
| 一三番 | 菊井 敏博 | 一四番 | 志村 信作 |
| 一五番 | 小沢 恵太郎 | 一六番 | 関 武夫 |
| 一八番 | 西村 真次 | 一九番 | 藤田 好治 |
| 二〇番 | 保科 忠夫 | 二一番 | 江田 徳太郎 |

二番 君塚喜三

二三番 中村省吾

二四番 島野茂樹郎

二五番 萩生田七郎

二六番 鈴木孝

二七番 嶋田繁

二八番 山田教幸

二九番 鈴木市蔵

三〇番 安藤龜吉

三一番 安沢徳順

三二番 三沢節

三三番 高橋文治

三四番 山本昇

三五番 松本藤太郎

三六番 山口康

一 議事日程

第一 通告質問

第二

報告第一号 昭和三十九年度館山市継続費繰越計算書の報

告について

報告第二号

昭和三十九年度館山市繰越明許費に係る繰越計算書の報告について

第三議案第四十四号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定に

ついて

第四議案第四十五号

館山市国民健康保険税条例の一部を改正する

条例の制定について

第五議案第四十六号

館山市水産振興審議会設置条例の制定につて

第六議案第四十七号

館山市学校職員給与条例の一部を改正する条

例の制定について

第七議案第四十八号

館山市公民館条例の一部を改正する条例の制定

について

第八議案第四十九号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費

用弁償に関する条例の一部を改正する条

例の制定について

第九議案第五十号

館山市職員の手当に関する条例を廃

止する条例の制定について

第一議案第五号

あらたに生じた土地を市の区域内に編入することについて

第二議案第五号

館山市清掃条例の一部を改正する条例の制定について

第三議案第五号

館山市消防委員会設置条例の制定について

第四議案第五号

昭和四十年六月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について

第五議案第五十四号

昭和四十年年度館山市一般会計補正予算

一 表第一百二十条による出席説明員

| | | | | |
|----|----|---|---|---|
| 市 | 長 | 本 | 間 | 議 |
| 助 | 役 | 小 | 玉 | 一 |
| 収入 | 役 | 完 | 戸 | 貴 |
| 秘書 | 課長 | 小 | 倉 | 登 |
| 企画 | 課長 | 谷 | 貝 | 茂 |
| | | | | 生 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|--------|--------|------|------|--------|--------|--------|------|---------------|
| 庶務課長 | 財政課長 | 市民課長 | 調査課長 | 収納課長 | 商工観光課長 | 農林水産課長 | 土木課長 | 建築課長 | 衛生施設課長 | 保健衛生課長 | 福祉事務所長 | 教育課長 | 教育委員会 庶務課長 |
|------|------|------|------|------|--------|--------|------|------|--------|--------|--------|------|---------------|

| | | | | | | | | | | | | | |
|------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 山口 実 | 長谷川 広治 | 羽山 房雄 | 高木 哲三 | 多田 俊一 | 小沢 正治 | 伊藤 幸太郎 | 新井 重助 | 高野 亮三 | 吉田 耕一 | 池田 亮山 | 鶴沢 寛寛 | 押本 禧逸 | 干場 伊右卫門 |
|------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|

司
學校教育課長

山根 春夫

同
社会教育課長

利田 正男

消防署長

岩田 実

選挙管理委員会
書記

大嶋 重義

監査委員会
局長

館石 勘治

農業委員会
局長

山口 太一

診療所事務長

平柳 徳藏

一本議会の事務局長、局長補佐、書記及び取員

事務局 局長

高梨 清一

局長 補佐

太田 博雄

書記

兵藤 恭一

取員

錦織 睦子

一出席議員 三十五名

一欠席議員 一名

午前十時五分

開議

議長(黒川佐太郎君)

。議長（黒川佐太郎君）

本日のお出席議員数 三十二名

これより第二回市議会定例会を開会いたします
本定例会の議案審査のための地方自治法第百三
十一條の規定による出席要求に対し、本間市長、
小出助役、完戸収入役、谷貝課長、小倉課長、
山口課長、長谷川課長、高野課長、新井課長、
伊藤課長、羽山課長、高木課長、多田課長、
鶴沢所長、吉田課長、池田課長、大嶋書記長、
館石局長、山口局長、平柳事務長、岩田署長、
押本教育長、平場課長、山根課長、利田課長、
以上のものが出席する旨の報告がありました。
監査委員より五月実施した例回検査の結果が
報告されております。それぞれお手元に配付の

印刷により御了承いたたきます。

議案を配付いたさせました。配付漏れはありませんか。

——配付漏れなしと認めます。

会議録署名員の決定を行ないます。

本定例会の会議録署名員に一九番議員

藤田好治君、二〇番議員保科忠夫君以上両君を指名いたします。

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

。議長(黒川佐太郎君)

異議なしと認めます。よって決定いたしました。会期の決定を行ないます。

本定例会の会期につき議会議事運営協議会の

意見は本日から六月二十三日までの五日間と
いうことであります。

おはかりいたします。

会期を本日より六月二十三日までの五日間と
定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)

異議なしと認めます。よって決定いたしました。

会期の決定を行ないます。会期は五日間を
決定いたしました。

この際おはかりいたします。

季節も炎暑の候となりますので、当分の間
略衣により会議を行ないます。

これに御異議ありませんか

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）

異議なしと認めます。よって決定いたしました。
本日の会議はお手元に配付の日程表により
行ないます。

これより市長の説明を求めます。

（市長登壇）（拍手）

市長（本間譲君）

議案説明を申し上げます。

本日ここに第二回市議会定例会を招集いた
しまして当面する諸案件の御審議を
お願いすることになりました。

今回提案されるもののうち報告関係では
昭和三十九年度継続費繰り越し計算書

及び繰り越し明許費にかかる繰り越し
計算書の報告でありますか、継続的費に
つきましては、二年継続事業であります 神戸
小学校改築によるものであり繰り越し
明許費につきましては、第四中学校屋内運
動場改築工事でありまして、これらを地方
自治法施行会の定めるところにより報告
するものであります。

その他上程いたします一般の議案といたしま
しては、新たに制定いたします水産振興
審議会の設置条例でありますか、これは
本市における沿岸漁業の近代化及び
漁業の体質改善等基本的な施策を
強力に推進するために諮問機関として

設置しようというものでございます。

その他消防委員会設置条例の全文改正
市、市税条例の一部改正、国民健康保険税
条例の一部改正、清掃条例の一部改正、
公民館条例の一部改正、学校職員給与
条例の一部改正、非常勤特別職の職員に
かかる報酬及び費用弁償に関する条例の
一部改正、職員の退職手当に関する条例
の廃止条例、期末手当の特例等があり
ますか、これらは関係諸法令に準拠して
市条例を制定もしくは改正しようというも
のでございます。

次に補正予算でございますか、一般会計
におきまして、千七百五十一万八千円を補正

いたしますか。そのおもなものは、総務費に
おいて姉妹市訪市訪問についての経費と
して百六万円、土木費において都市計画事業費
で千三百四十九万余円、衛生費におきまして一
尿処理関係で百十六万余円、消防費において
都市施設関係で百一万余円がおもなもので
あります。

おもな財源といたしましては、国県支出金、
市債等特定財源九百八十九万余円とその他
一般財源により充当しようのものであり
ます。以上議案につぎまして、きわめて簡単
に申し上げますが、各議案につぎましては、
上程の都度関係課長より詳細に説明
申し上げますのでなにとぞ慎重御審議の上

御賛同くださいますよう切にお願い申し上げる次第でございます。（拍手）

・議長（黒川佐太郎君）

日程第一通告による行政一般質問を行います。

順序により一。審議員の辻田実君御登壇願います。

（一。審議員登壇）（拍手）

・一。審（辻田実君）

現在館山市において作成中の長期計画について御質問申し上げたいと思います。

まず第一に現在作成中の長期計画は、その内容と性格についてお尋ね申し上げたいと思います。

すなわち従来の長期計画は単なる机上の計画でありそれが単なる計画の計画に過ぎないという感じがあつたわけでございします。例えば昭和三十五年に設定されましたところの新市町村五カ年計画に基いた長期計画は、本年完了するわけでございします。その内容が実施に當つて大幅に変更されてゐることは申すまでもないところであつたわけでございします。

そこで私はこの三月の議会において市長並びに教育委員さらには企画課長がいろいろな施策に対するところの質問に對しまして、長期十カ年計画の作成中でありその中においてこれらの問題については

具体的に解消していくというふうなことが申し述べられていたわけでございまして、私はこれに関しまして、今、館山市が直面している重大なときにその長期十年計画かどのような形でどのようなように作成されているのか、そうしてどのような形でもってこれからその作業が進められているか、その概要について系統的に知りたいと思うのであります。

そうしてその長期計画の持つ行政的な効果かどの範囲にどの程度に及んでいくのか、それらの点についてお聞かせを願いたいと思います。

もちろん長期計画に対するところの計画につきましては、公表できる面と公表できない

面がございまするけれども、しかしながら具體的なものはいざしらずその概要についてでもある程度明らかにしてもらう必要があるのではないかというふうには私は思うのでございます。そういう意味におきまして私はまず第一点につきましてこの新長期十ヵ年計画の内容というものがどういうものであるか私はお尋ねしたいわけでございます。

二つ目に私は長期計画の作成に當って非常に心配される面があるのではないかと思うわけでございます。

その点について私は市当局の忌憚りないところのお答えを願いたいわけでございます。すなわち私は教育産業・農業・観光こう

したいろいろな市の重要な施策が出るわけがございしますけれども先般の新市町村建設計画に基いたところの五カ年計画の中ではこうしたものが分類されながら計画されているわけがございします。

今回このような形でもって当然作業が進められていっているわけがございしますけれどもそのことでお伺ったのは昨年の暮春だと思ひますけれども市長の方から各課に対してまして教育に ついては教育委員会さらに農業については農林課 商工観光については商工観光課という各課に対して長期十カ年計画を策定するので早急にその内容を検討していただくという形でもって提示されたやに聞いておるわけで

ございまするけれども、

そうしてその提示されたところの内容の提示かほとんどの課かその提出を明示されてから一月前後でもってその計画書というものか締め切られて企画課の方に集約されたということとを聞いてあるわけでござります。従いまして私は各課においてこれから十年間、館山市民のめざす方向、市政のめざす重大な長期計画というものかわずか一月やそこらでもってそれらも突如として各課に提示されました。従いましてそれを提出させられた。従いまして聞くところによると、教育委員会、農業委員会、観光課等においては、都部内における審議も十分でなかったということとを聞いております。さらに重大な教育問題については、片

の審議しかできなかったという点も私は伺てあるわけでございます。これらについてはそういう話を聞いてあるので実際どうであったかという点を提出されたところの書類かどのような形でもって審議されていったかという点について私は伺いたいわけでございます。それは私心配しておりますのは今申し上げましたように本当に一部の事務職員によって作成されて教育委員農業委員という意見が十分反映されないものが現在計画されて近いうちに先般の議会であります。今年の九月頃にはまよめ上げますというお答えがあったわけでございます。けれどもそういうことであると私は十カ年計画というものが大へんなことになるというふうに心配されるわけで

ござつましてその点についてお伺ひしたいわけ
でございます。

なぜかういうことを質問したかと申しますると
私はこれから十年間いろいろ京葉工業地帯が着
々造成される。非常な勢いで進んでいる中で十年計
画というものは私は重大な意義を持つわけであ
ろうと思うわけでございます。そうしたものやはり
各課を中心としたしましてその部内で十分審議
されさらにその審議されたものかその課を中心と
したところの専門家の公聴会 農業については
農庁の意見を聞き、産業については商工業者の意見
を聞きさらに観光については観光業者の意見等
を十分聞いた上でその上に立脚して、市民ぐる
みの計画というものかなされなければならぬ。

それが第一点に御質問申し上げましたように机上の計画に流れてしまうという危険が出てくる。この二点について二番目に私は今進んである長期計画の手続的な面について心配される面があるわけでございますけれども、この点については私が心配するような点はないのかどうかお伺いしたいわけでございます。

三点は特に市長さんにお伺いしたいわけでございしますけれども、長期計画作成に当りまして市の基本的方針そういうものが明らかにされていらない中において作業が進められておる気がいたしてならないのであります。市長は教育、産業、観光を中心とした十万都市とスローガンといったしまして市政を進めておる

ことはよく存じておりますが、今回の十カ年計画に
当たりまして、果して十カ都市としての前提の上
に立って計画を進めていかなければならない。

こういう十カ年計画に当るところの所信なり、そう
いうものが明らかにされておったかどうか、この点に
ついては、市長さんはどの範圍までにおいて具体的に
各課なり、また長期計画作成に当りまして
示唆して参ったのか、その点について私はお伺いした
いわけでございます。

特に教育問題については非常に大きな問題が
あつて、この議会においても論議されるわけでございます。
新市町村五カ年計画をなかめて見た場合、その
中心となつてゐる基礎調査、さらに基本調査
現状分析、実施計画という膨大な資料があつた

わけでございます。するけれどもそれを見た場合にこのことか過去五年間に完全に実施されたならば今議会で問題になる教育の施設、道路そういう問題についてはすべて問題がなかったのではないかと、いう位に立派なものである。しかしながら現実はそのでなくて全く目をおおうような状態にある。こういうことについて個々の問題について例えば教育の老朽化の解消については抜本的全面的にやれとか、観光の施策についてはどういふところを中心にしてやるとか、具体的に提示されたか。その点についてお伺いしたいわけでございます。たまたま昨日のテレビをタチのテレビを見ましたところ、市ではタチとあらなかったようにございすか、通産省の方でもって館山市を

中心とした産業団地の育成について、調査を行なうということが報道されておりまして、私は感激したわけでございますけれども、その反面国や県でもってそのような基本的調査を進めておるにもかかわらず、館山市がそういう計画より遅れた形で消極的な計画または市政というものが行なわれている気がいたしました。また長期計画作成中であるということを開いておりましたので、ぜひそういう国や県の要望を十分組み入れ、市民一体となって作る必要があるのではないかというふうに考えるわけでございまして、この点について十分万都市三大施策と長期計画に対する市長の示唆または指示、そういうものについてどの程度にどのように行な

われたか、その概略でもいいわけでございます。けれども、その点について三つ目にお伺いしたいわけでございます。

四番目にお伺いしたいことは、今回の十カ年計画を作成するに当りまして、館山市の二つのビジョンといますか、将来の未来図、こういう二つのものを打ち出してあるか、その点について私はお伺いしたいわけでございます。この点につきましては若干抽象的になると思いますが、それでも私は今までの三大施策というものが教育、観光、産業ということでいわれておりますけれども、そういう中で将来の館山市が観光を中心とした十萬都市かどのような形で形成されていくのか、観光と産業かどのような形で

結ぶ付いて発展していくか、こういうような
未来図というものが少くとも中学の高学年
から高校生に至るところの人たちか理解できる
程度にそういうものかあつてしかるべきではないか
私は青少年相談員をやつておりまして千葉市
県北に参りますと千葉市は工業都市として
このように発展していく近い将来には五十万
都市になるといふことを青少年たちはいつてゐる
そういう将来の柏市、船橋市、そういうものを
青少年の集まりの中でわれわれの都市が
二十万三十万になるのだといふことを具体的に
口にしてゐるのを聞くとときに館山市が十万都市
を標榜しなから年々人口かわずかではござい
まするけれども減ておるといふ逆行的な

現状が出てあるときに、私は館山市の青少年が郷土を愛し、そうして多くの入たちが県外に働きにいかねければならないという中において、やはり館山市の夢というか、未来図そういう方向が少くとも十カ年計画の中においてある程度示されていいのではないかと思うわけでございしますけれども、そうしたビジョン未来図、そういうものを想定しているのか、これから作成の中で作っているのか、そういう点について考えてあることがありましたら伺いたいと思うわけでございます。

これと関連しまして、今回作成されてある長期計画というものは、どういう法的根拠とございますか、どういう性格でもって作成されて

おるか、その点についてお伺いしたいわけでございます。

前回の五カ年計画というのは新市町村建設計画という二つの法令に基きまして作成された。それに基いて補助金起債という資金的なものを了解して作られたというふうに伺っております。ございますけれども、今回の十カ年計画というものは全く市独自の発案により市独自の計画であるかその点についてお伺いしたいわけでございます。

また法令とか通達というものの性格によりましては場合によるともつと慎重に市民とともにこれからでも遅くはないわけでございます。その点については十分やはり手続きさらには

これからの作業の進め方について、私はいろいろ申し上げましたような心配かなのか、そういう点について私は市当局とともに建設的な方向に進んでいきたいわけでございます。以上非常にざつぱくになりましたけれども、四点について御質問申し上げる次第でございます。

(市長登壇)

市長(本間謙君)

ただいま辻田議員さんから非常に明解な立派な御質問がございましたが、私は話しかけたでございますから、かねていろいろ検討してきまして、ことによりまして御回答申し上げます。と思います。

まず第一点の長期計画の作成についての

方針と概要について申しあげたいと思います。
現在作成中の長期計画は法令等によるものではないと思いますので、市独自の立場から真に本市将来発展の方向を計画しこれを年次計画によって実施して最終的な目的はあくまでも事業も効率的に実施してより一そう市民福祉の増進をはかろうとするものであります。

もちろん十カ年間の長期計画でありますので十カ年後の館山市の人口はどのくらいになるか市民所得はどうなるかあるいは産業構造はどうかわるか、それらが基本的に作られてそれにそつて各産業部門、教育文化生活環境等計画化される予定でございます。

これが第一点のお答えでございます。

第二点につきましては現在作成中の長期計画はいかなる手続きをもって進めておるかということでございますか、現在作成中の長期計画は役所内において各課長をもって構成する企画審議委員会を設置して策定の態勢手順等を進めて進んでおるわけでございます。

作成の総合調査 進行管理等を企画で行ない各課所管部門で作成中で作成に当りましては市勢振興調査の方向を指針とすることはもちろん重要課題に關しましては、前託委員会市建設審議会ある中では学識経験者等の指導。

助言をあげた内容充実をはかる一方、これが
目的を達するためにはできるだけ一般団体市民
の意向を把握するように心がけて進めております。
すなわち市勢振興調査の報告結果のうち
どの部分をどういうふうに活用するかは各課
の判断に期待してあるわけですが、まだ公表の
段階でございせんか、内容と現実問題との
関連を考慮してできるだけ公表したいと考
えてあるわけでございます。

そうして市民の意向把握に関しては、原案作成
途上において各団体や業界代表とも打ち合
わせた結果、これを修正するとうよう
なことでこれをまとめたいと考えてある
わけでございます。

第三点につきましても、いろいろ示唆を存えて、この計画を進めておるかという御質問でございますか。本市の産業経済の基盤をなしているものは農業を主体とする第一産業、商業を主体とする第三産業でありますか。近年における国内情勢の大きな変化に伴って、いずれの産業部門も生産性の向上と経営の合理化促進を強く迫られております。他面また恵まれた地理的条件とすべからぬ観光立地条件を生かし、観光振興による産業構造の高度化という二つの要因は内部から、また外部からも強く要請されておるわけでございます。さらに年々減少しつつある本市人口の低下は、若年人口を収容し得る経済力を

どこに見出すかは本市自体の大きな問題であると考えます。

以上三点は特に本計画の指針とするようにしております。

教育につきましては教育の効率面から適正規模の学校とかさらには不適格校舎、危険校舎の解消等を強かに推進して矢張りたいと存じてあるわけでございます。

十萬都市ということはそれに基きましてこれを作成してあるわけでございます。十年後には人口十萬によるような計画で進めてあるわけでございます。

第四点についてお答えします。

現在作成中の計画案が机上計画に終りはしない

一かと懸念されるおきかあるとのことでございますが、そのために国庫の指導助力を得ることはもちろんできるだけの資料を参考にしてあるいは専門家の助言等も努めて取り入れ作成する方針でございます。なお計画はあくまでも財政力の範囲内で作成しなければならぬもので、できるだけより効果的な事業にしぼっていかなければならぬと思います。

いま成案途上の段階でございますので、具体的例を上げる点はしばらく御容赦願いたいと思います。

ただいまの情勢ですと、農林水産、消防、建設等は、一応各課の方から原案が参つておるわけでございますが、観光部内に

つぎましては、ただいま日本観光協会の意見を
聞きましてその報告を待つて最終的の基本
策を取ろうと考へておるわけでございます。
もう少し具體的な点につぎましては實際担当
してゐる企画課長からお答えしたいと思ひます。
まことに簡單でございますけれども一応概略の
ことを申し上げまして御回答にかゝる次第で
ございます。

。一。番（辻田実君）

先ほどもなつと申し上げましたけれども、今の
市長さんの御回答弁でございますと私が
心配しておるようなことについては解消されな
からやつてゐるわけでございますが、實際に
ついてはどうなのか、聞いておきたい。

要するに教育委員会なり観光課なり
それらについては期間的にも短時間で
事務局の討議か少い

三月の議会で教育長さん等は私の方でもって

早急に取りまとめ期間かないので企画課
の方に出したけれども、これが実際に十カ年

計画の中で消化されるかまだわからないという

お答えがあったようでございますし、また若干

の農業委員の方に聞きますると農村青年

の座談会等で聞いたわけでございすか

そういう計画があるらしいけれども農業

委員会で報告したらしいけれどもわれわれ

の意見を聴取してこうやるということはないか

農村青年の座談会で出た意見というものが

計画の中に反映されなければならぬという
こともあったわけでございます。それらの
点については将来の問題としてともかく現状
としてはどの程度になっておるか企画課の方で
まとめたものをどういうふうに処理してゐるのか
それらについて再質問したいわけでございます
けれども、課長の方から

企画課長（谷目茂生君）

御説明申し上げます。

長期計画の取りまとの手順につぎましては、
一応策定は直接所管の各課でもって草案を
作っていただきまして、企画課の方に出して
いただきましてそれを課長をもって構成してあり
ます。審議会その場である部門においては

もう少し積極的に計画を成し込んでいくとか、この部門は総体的な面から無理があるから、ひっこめてもらいたいということでは審議していただく。さまして最後調整を企画課が中心になつて、まとめるということでは進めております。

一ヵ月か二ヵ月の期間内で計画を出せというお話もございましたが、各部門部門の課でもって草案を作る場合に、その主管課かおのあの関係してある諸団体等もあると思ひますので、そういった面の意見を聞きながら、主管課の方でもまとめておるということでございまして、

一、二ヵ月に出したということは、主管課に出したということではございまして、部門でまとめたものに対して、すでに私の方に出たものは先ほど

お話がありましたように、農林水産
消防建築という関係だけでござい
ますが、これらにつきましても、ほ
かの部門の計画が、出ますと、総
合的な面から調整していかないけ
ればならないので、最後にそれが
完成したという、ことではござい
ませんで、今後総体的な計画の中
でまた手なおい手順を踏んで、最
最終的にまとめる段階でございま
す。

二〇番(辻田真君)

今、答弁を聞きますと、それい
に思うが、そういうふうになつて
おればいい。

私は特別にお伺いしたいことは、
先般行なわれた都市診断ですか。

館山市振興計画書、それの策定
のときは

むしろ現場の職員の人たちが大学の先生に
いろいろ意見を聞かれ大学の先生について
進言したものを体よく学問的にまとめて参
った。そういうものである。従つてそういう面
ではあのものというのは盛りたくさんのものが
あつて私は若干の市の職員の人たちから聞
きましたけれどもあの計画書というものは
われわれがふだん考へてゐることが大学の
先生に申し述べた範囲から一歩も出てない
ということばさむしい。私自身もあの中では日頃
いろいろと市の方々と話をしておつていろいろ
聞いておることが整理されたという範囲に
把握してゐるわけでございます。特に目新し
画期的なものは観光部門等において若干

ある程度であれば市の事務局の中であつたものかまゝとめられたというふうに考へておりますかあゝあゝした形の範囲位まで今度の計画については討議する必要があるのではないか。

特に教育問題について若干問題があるようです。から学校の校長先生、現場の先生に聞かましても十年計画というものはほとんど知らない。そういうものがあればこういうところはどうしてももらいたいということをしておりまして不満を持っておるわけでございます。そういう点について私はここでどうこうというところはいいませんか。私のつておる真意は御理解できると思ひますのでそれを現実にやっていたかたいというふうにするわけでございます。

その点、要項をいたしましたあと二点だけお伺いしたい
 と思います。その一つは前回の新市町村計画
 でございまして基礎調査というところでいろいろ数
 学的なものが並べられておるわけでございます。

さらに基本計画さらには現況分析というものが
 やはり数^学計的にその実施計画の中でやられて
 おるわけでございますか。しかし私疑問に思う
 のは数字は並んでおりますけれどもこの数字の
 中からどうも館山市が盛り上って発展して
 こういう方向に進んでいくのだという方向性が
 ほとんどない。みんなばらばらに数字が並んで
 あるということであつてその点について私は非常
 に不満を感じておるわけでございます。

その点について私か質問しましたように

市長さんかそういう方向について示唆を乞へた
かどうかという点お伺いしたいわけでございます。
また将来の千葉県は工業都市としてこういう
ふうに進んでいくのだ。館山市の観光という
ものは、こういうふうになるといふ数字から引き出
きたところの二つの方向というものをパンフレットの
ような形で先ほど申し上げましたように中学生位
になれば理解できて口にする。そういうものを作る
予定があるのかその点についてお伺いしたい
ことともう一つは館山市の工業団地調査という
ものをやられてあるようでございますけれども、
その内容等テレビを見ていた仲間たちも
館山も工業的に発展するのだということでも聞い
たわけでございますが、あのテレビの背景そういう

ものはどの程度把握されておるのかああいう
ことが新聞テレビを見て回りの人から
そういう計画が進んでおるのかというふうに
聞かれる人ですかそういうものはどういふふう
に把握されておるかその内容についてお伺い
したい。

企画課長（谷貝茂生君）

第一点でございますが、先年作りました建設
計画は町村合併して事業を計画的にやっ
ていくのたという事で、計画を出せという事で
短期間に作りました関係上、極端にいえば
一夜づけということから内容が数字の羅列的
な傾向もございましたが、長期計画として一番
大事なことは人口が十年後にどうなるか

いろいろな施設かどうに計画されて
いくのだから産業構造の内容とかそういうた
ものは本来ならば中心になってその他の面が細かく
計画されていくのかたてまえでございすか当時
の建設計画はいそがれたことと一割増産主義
二割増産主義というきらいがございまして、現状
にそぐわないという傾向がございしました。

資料は相当なものをそろえたわけではございす
か、今回作ります長期計画については、その当時の
資料も使えますしその後調べた資料等も
ございすし、総合調査の点もやはりこちらで
つかんでおります。資料を検討して出た結果で
ございすので総合調査もいろいろの資料に基
いての提出でございすので、ある程度貴重な

ものでないかと思ひます。

一口に申しますとちやうと理想にはしり過ぎる傾向もある。現実問題とのにらみ合わせを考えればこれをどの程度長期計画に組み入れるかということか課題になると思ひます。

現実を把握するために各関係の意見を聞いてまとめていく。ただ財政面等の関係がございますのでこれを調整してこういうことではございますので一応なるべく机上プランに終わらなうように努力したいと思ひております。

この計画が一応まとまりますれば最終的にはこういう姿でなっていくのだという資料を作りたいと考へております。

工業適地の問題でございしますが大体終戦後

十カ年位の間におおまきしては、市の行政というものは大きく分けますと生活を維持していくための関係事業とそれから所得をふやして市勢の発展をうながす事業というふうに二つに大別できると思っています。

終戦後十カ年位は生活環境にはほとんどの市町村が公共投資が行なわれておりますが、最近になりまして特に生活環境の施設よりも生活水準を上げるために所得をふやし経済力をはかつていくといういき方に力を入れていかなければならぬという傾向になってきたので、国が昭和三十年度に建設計画五カ年計画を立てた。

これが三年で達成できていると三十二年に新市町村五カ年計画これも二年間で目標達成

できて所得倍増計画に移った。これかやはり年度
 半ばにして平均では所得がふえたけれども
 内面的には第一次産業の所得工業地帯の所得
 ということで極端なでこぼこかたさという
 ことでアフタケアーの問題が出てくるわけござ
 います。こういう経済の変動を考えて矢張り
 ましたときにある程度所得をふやす施策に
 力を入れていかなければならぬのではないかと
 いうところから工業関係についていろいろ
 全国的に討議されました所得の低いところに
 工場を持ってつてそれを中心として経済力を
 はかして恒久的に第一次産業の所得をふやす
 という国の方針でございますが、当時県から
 話しかかございました。工場を館山市にある程度

持つていくためにどうだろうという意見を
聞かれたこともございましたが、水の問題やら
立地条件として二、三十分でない点もございま
した。けれどもここはここなりに適する中ハ
企業でも結構だからある程度のもものは
可能であればござるだけ、御後援願いたい
ということも申し上げたことかございます

その当時に坪数は御容赦願いたいと思ひますが、
公害問題その他の起きない程度、水問題も
現状の姿においてある程度の工場誘致についても
話し合ひの結果その点についても県の方でも
進めておいてくれましたかその結果か今回の
調査の動機になつてゐるわけではないかと思ひます。

○番(辻田実君)

最近通地調査が新聞報道機関で発表されておりますか。信憑性についてはいざ知らず市については連絡がついて行なわれておる裏づけがあるか。あれは市の方で参加しておるといふふうにも感じられる。やってゐるか。やってないか。その点についてお伺ひしたいと思つます。

・企画課長(谷貝茂生君)

地元で内部的にどこか通地であるとか、坪数かどの位可能であるか、水とか具体的にいろいろ検討してございますか。二十四日に一応県の方から係官が参りました。打ち合わせをすることになりました。これは館山市というところになりましたが区域にいたしましたは館山を中心いたしました。千倉、三芳を二応含めて調査するということに

なっております。この打ち合わせによって細かい
ことかわかってくると思います。

議長（黒川佐太郎君）

暫時休憩いたします。

午前十一時

休憩

午前十一時三十分

再開

議長（黒川佐太郎君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

三五番議員松本藤太郎君御登壇願います。

（三五番議員登壇）（拍手）

三五番（松本藤太郎君）

私か質問をいたそうとして通告いたしました
内容はプリントの通りごく簡単明瞭なものでござります。

最近学校へ子供さんをやってある父兄から非常に金がかかってしょうかなというふうなことを再三耳にするわけでございましてそういう観点からやはり議員として市政に参画してあります一入といたしまして責任を痛感しておるわけでございましてこの点について市長さんに特に需用費関係についてどのようなお考えになるかという点をお尋ねするわけでござります。

これは印刷とかそういうった面でなくて予算上に示されましたものについてのことでござります。いかえらるならば算数のようなものでそういう

点での質問でございますのでわかりやすく考え
とお聞かせ願いたいと思います。

市長さんが市長に就任されました。最初の年の
三十八年度の予算にはあまり御意思が反映
されなかった。しかし三十九年度におきましては、
非常に新しい本間市長の考え方が予算の面に
現われて参りました。

特に市長がかねてから主張されておりました
義務教育の父兄負担の軽減だんだん減らして
いこう。近い将来に負担を解消したいということを
三十九年度当初予算のこの議場において意思
を公表されました。われわれはその英断に対し
まして心から敬意を表したわけでございます。

他市よりも比較的多い小学校を持つてゐる。そして

財政的には貧弱な市においてそのようにまで父兄負担に対する関心を強く持っておられるということは非常にたのしく、そうしてその日の一日も早くきたらんことを期待しておるわけでございます。

しかし最近わずか一年しかたっておりませんが、その間P.T.A.の会費はなるほど上らないが口数加ふえたあるのは修理工費という名前において金を払っておる。こういうたようなことが現実として出て参っております。

まずこういう点につきまして申し上げなければならぬのは予算の面の需用費の額でございますが、数字的に申し上げますと三十八年度の予算よりも三十九年度は需用費において

小学校が二百十萬八千円増額の分をこれも
百四十萬というシンクロファクスを除いて
本當にそういう單年のものは除いてどうしても
私は必要だというものだけでも小学校費において
二百十萬八千円増加されてゐる。これは小学校
十三校にこれを平均しますと十六萬二千円ずつと
いうことになり、中学校におきましては百九萬一千円
ふえてゐる。これを一校当りにすると十五萬六千円
という数字が出る。これだけ三十九年度については
増額されたわけです。さらに今年度四十年度
はさらにそれに加えること。小学校におきましては
七百七十名の児童の減あるのは學級も十二という
減をみてゐるのでございますが、本年度はさらに
百四十五萬今年はふえてゐる。

でありますから合計しますと三十八年度に比べまして三百五十五万八千円というものがふえておる。昨年度よりこれも昨年度に比べまして、百九十一万六千円の増額でございます。

もし三十九年度におきまして不用額を出さずに完全に執行されておるとするならば今申し上げましたような数字が学校へつてなくては行けない。しかし物価の値上げということもありますし決して満足するものでないことは承知いたしております。しかしそれまで、三十八年度までに父兄が負担をしておる額があるわけでございますが、これが少くも影響がなないといふことはどうしたと云ふのか、もし軽減されないと本年年度の分などを入れますと

五百三十万以上になつてもなお一月の軽減もない
ということになるとするならばこれは父兄負担の
解消というようなことをいわれてもいつその目か
くるかわからなくなつてしまふ。おしやかさまでも
わからないそればかりでなく父兄負担の軽減
ということをおしやつてゐる市長さんは、そういう
言葉は二つのキャッチフレーズに過ぎないのである
。そしりをまぬかれなうと思ふのであります。

そういうたうな市民の声これは市政に対する
この上もない不信の元をなしてゐるものを考えます。
従いまして三十九年度において減額をされてな
かったことこれも校長会云々といううなことで
下げないと同時に上げないといううなことを
さめたいといううな抽象的なことではわれわれは

納得できないのであります。

実質的に上つておるといふ現実であります。
でありますので三十九年度の不用額を出さず
執行されたとするならばどうして下らなかつたといふ
理由さらに本年度は増額されております
ので、それに対する見通しをお聞かせ願ひ
たいと思います。

もちろん市長先生は、こういう点については教育
委員会から十分説明を受けておられると思ひ
いますか、われわれ以上に納得のいかなければ
ならぬ立場であらうと思ひますので、その点も
明解にお聞かけ願ひたいと思ひうわけであります。
以上
(拍手)

(市 長 登壇)

。市長（本間議長）

松本議員さんのP・T・A会費の軽減問題につきましてお答えしたいと思ひます。

私は義務教育に対する父兄の負担を軽減することはもつとも重要じゃないかということでは考へて参つたわけでござります。

とくに最近のように教科書までも無料で配布をするというような時代でもござりますので、とほしい予算の中におきまして予算がきまりました最後においていつでも二百万あるいは二百五十万というものを特に付け加えて参りました。また教育委員会の方にもそういう方針を話しをしてそういうふうな実施してもらいたいというふうにやつておりましたが、今松本さんのおっしゃるよう

軽減されないというふうなことで非常に私も遺憾に考えておりますけれども、これは私が責任を回避するわけではございませんけれども教育委員会の方へその都度強く希望を述べてあるわけでございますが、軽減ができないわけでございますけれどもいろいろの点について問題があるのではないかと思いますか、私はあくまでも軽減とはかるということでも今後も対策として参りたいと考えておりますが、私が申し上げるより教育長の方からお答え申し上げたいと思ひますかその点で御了承願ひたいと思ひます。

・教育長（押本禧逸君）

松本議員さんから義務教育父兄負担の

問題について御質問がございましたか、この問題につきましては、去る議会にも出た問題でございまして市長さんからもたひたひその御趣旨は聞いてゐるわけでございます。

しかし私が前の議会で申し上げましたところかどうか舌足らず説明不足ということでございます。なかなか納得でさるような答弁ができませんでした。わけがございまして恐縮に存じております。

まうは幾つかの数字というふうなことでございまして、なのでそういうものが御納得いただけるかどうかわかりませんが申し上げてみたいと思います。

御承知のように学校で学校運営の予算執行というものは市の予算による配当と現実には日本中もとも富裕な都市といひましてもP・T・Aの

後援会費的な支出。こういうP・T・Aが進んで
 学校の経済的負担をする。こういう両方の費用を
 加えたもので運営をしているのが実態でございまして
 これは学校自身あけて学校の児童生徒の
 教育実績を上げていくためには常に何らか
 新しい方法あるいは進んだ方法。こういうものを
 取り入れながら先生方も勉強しながら
 教育の近代化というものを、はかりつつ進んで
 いくために要することは私が申し上げるまでも
 ないことであります。

市の予算とP・T・A予算との関係を数々
 申し上げますと北条小学校の例でございますが
 北条小学校はP・T・A会費としては市町の
 二十校のうち最近今までは一月四十円、こういう

会費でございます。そして、その学校の予算を市費と両方
加えてあげてみますと昭和四十年年度は市費の配当が
五十五万四千三百円 P・T・A 八十九万三千三百円 合計百四十
四万四千六百円という数字が出ております。

三十三年度は市費の配当が六十七万五千二百円 P・T・A
五十九万九千四百円 加えて百九十七万四千六百円 三十九年
度で比へますと市費百三十三万三千六百円 P・T・A 会費
の総額が五十八万七千三百円 加えて百九十二万九百円です。
こういうふうなことになります。

昭和三十三年度という時点に立ち考えますと五十五万と
八十九万ですから P・T・A 会費が二倍にはなりませんけれ
ども一六七倍位になりますか P・T・A 会費の方が多かった
わけではございませんか 昭和三十三年年度頃には市費が
九十七万 P・T・A 九十九万というところでございまして

こちらで市費が激次増加して参りました。ほとんどとんとんに近い数字が出て参りました。去年は百三十三万三千六百円の市費に對しましてP・T・A五十八万半より少い、こういう数字になつてきてゐるわけでございます。

これは今の物価上昇というふうなことの比率の中で市費が逐次義務教育に市長さんはいの御当局の方々が教育委員会の方算に對して順次増加した状態を示してゐるわけでございます。

それから需用費がふえたからたまたに父兄の負担軽減までいけるかという問題でありますか。これは理屈で申しますと現在先ほど申し上げましたような市の配当とP・T・Aの会費というところで校長先生がゐる程度これで満足してゐる。

まあまあこれで結構だ。こういう状態であるとすれば、なるならばふえた分だけは子供に還元して、会費が五円なり三円なり下げることで済むかと思ひますか。具体的に需用費がふえた中でもそれか全部学校の運営費そのものにいかないで、今年の場合で申しますと言語治療教室という新しい特別学級かできるわけでございまして、これに六十万の教材器具等が必要でございしますし、さらには四万五万の消耗品必要でございします。印刷その他ということでも七十万に近しいものかそういうものから抜けるわけでございします。さらに本年度は小学校の教科書が全国一斉に改定されましたので、その教科書の指導書というようなものを小学校全体的には六十万ほど需用費の中から取り去るわけでございします。その他前年度

で申し上げますと給食の施設とかシンクロマックス
また三十九年、たったかと思ひますが各学校の井戸
がありましてそこから飲料水に使つてゐるところに
保健所からものと滅菌しなければならぬという
ことで四十万ほどかゝつた年もございす。その他
いろいろございすか特殊学級を新設するときにも
同じことかいえるわけでもございす。こういうことが一つ
ございす。

さらに物価の値上り率ということで申し上げますならば
内閣統計局の消費者物価指数で申し上げてみたい
と思ひますか昭和三十五年を一〇〇として昭和
三十九年は一三二・二、三十八年度は八八という数字が
出るのだとさうでございすか、そこで三十五年度
ある学校のP・T・A会費が五十円としますと

その消費費者物価指数の上昇率に比へますと三十九年度に六十五円五十五銭ですかこれだけに一口分でいただければ物価指数と同じ比率でいったということになります。

そのまますえおいてございますから十五円五十五銭値下げというんですかそういうことを申し上げるわけでございます。

さらに教材教具等の消耗率と申しましょうか。

文部省では耐用年度をこういうふうにしるものは申し上げられませんが机椅子等でございます。一三耐用年度十年十年たったらかえる。十年と位にかえていくというのを考えなければならぬ。

もっと小さな日常に多く使用するところの教材教具地図とか理科の関係器具等は五年、三年でこれ

れてかえなければならぬというものがあるわけだ
ございます。さらに古いものを交代させていくと
いうばかりでなくときとともに時代の移りかわり
にふいて教育というものはしていかなければ、その
学校は時代遅れになるわけだ、ございますので
そういう意味ではいろいろ教材教具あるのは
机というようなものも大正時代のものを大正時代
はないかもしれませんが、戦前のものを使っている
机はたくさんあるわけだ、ございます。

生徒の伸び率等と比べますと、けたさはかせなけ
れば思ふような正しい姿勢で授業ができません、
場合もあるわけだ、ございまして、校長からは大幅に
修理して、けたさはかせてくれ、ということも出る
わけだ、ございますか、そういうものの

予算的な要望たくさんあるわけでございます。いろいろの意匠で市当局からは予算が逐次ふえ
ているわけでございますが、今ただちにその分だけを
引くというようにできないことを申し上げざるを
得ないというような実情にあるわけでございます。
なおこの予算につきましては学校長と特に年間を
通じて緻密な予算の項目等も設定いたし
まして一律な考え方で年間の経常費等を
もう少ししさいに調べましてきたるべき四十一年度
の予算には提出申し上げ増加していったきたいと
いうことを思うわけでございます。ただ教育はかり
でなく全体的な案分もあることでございますので
教育委員会は子供の将来館山市として立つ
子供日本として立つ子供というものの育成

形成のために尽して頂くわけでございますので
この間北条小学校につきましたらあるおかあさん
はちつとでもいい施設で勉強させるようにしてくだ
さい。このような状態のままでば子供かみいので
限界にきているので、たちに予算を多くして
もらいたいというような言葉を聞いていた
わけでございます。よりよい教育をしなれば
ならぬという期待と信頼を学校に持つわけ
でございます。私どもの方にもひびいてくるわけ
でございますので今後ともよろしく予算について
お願いしたいと思います。
ましまらなりあつちこつちったような説明であつた
かと思ひますか以上で終ります。

細かく教育長さんから御答弁があつたんですか
何か具体性というものは一つもなくてただわかりやすく
いうならばおおづかみのようなものな私は受け取った
わけでございます。

子供を学校にやつている親の気持ちと同じだつたし
でもいい学校にやろう専門校にやろう施設も
立派な施設の中で完備した中で環境もよくさらには
いい先生にあそわりたい。これはもうたれてもそう思う
しかしそういったようなことは無限である。教育に
対するそういう希望というものは無限大であるという
ことはずっと前からいわれておることでございますが
しかしそういったようないろいろの希望を早速に
話し合つて実現の方向へといけるところとあらゆる
希望も負担というところを考えたときに口にすら

しない学校もある。

要するにそうした学校差が非常に多いそうだった場合に教育委員会はまずどういうところでチェックしていくのかどうしても必要だ。机がいけないというものは当然父兄の負担ということではないと思う。

これは立派に長期計画の中に入るべきものだ。体位が向上したのは今年ではない。数年前から叫ばれてゐる。でありますからそうだったようなものか必要だからといって父兄の負担がますのだ。そうして父兄はどこまでもいい施設がほしいのだからといってそのまま教育委員会としてはそれをそのまま通すというとはどんなものか。こういうふうに若える。その点についての教育長の考え方をさらに四十年度は先ほど申し上げました通り、小學校に

おいては三百五十六万五千円という三十八年度より相当増額されてゐる。小学校ですから五千七百九十名の児童です。一人当りにすると六百十四円、月額にして五十一円強の配分になるわけでございます。

中学校費については四十年、三十八年度対比百九十一万一千円の増、これも児童数三千七百八四名で除しますと一人五百五円、月額四十二円強の父兄負担であつたものが需用費として市から当然予算上では出てゐる。そういう計算になる。私はそれをいつてゐる。

だからこういうものが父兄の負担でもつて教材なり教具なりそういうものを買つてゐるのか、幾分位出してゐて足りないのか、だから私は算数だ。二たす二は四だ、それをいつてゐる。

具體的にできれば抽出をして学校のものを示して
いただくとは非常に私たちもはつきりする。

ただ全般的に経済の上昇というようなこと
だけあるいは教材の耐用年度をおつしやられ
てもびんとなない。

漠然としてしまつてゐる。實際の内容は今申し
上げましたような予算が増額されてゐると
いうときにただいまのような総合的なこと
だけでは釈然としなない。それを聞かしていただ
かないと私の質問も意味かない。

その点学校を抽出してやつていただきたい。

このように思うわけですか御意見はいかか
でございましょうか。

・教育長(押本禧逸君)

ほしいものについて一応購入する場合にうちの手の決済を取りますから、当然必要でないとしたものはそこで切りますからそういうものは普通通じません。それから各学校に配分された増額分が小学校で例えば五十一万あるというものかどう使われたかということになりますといろいろ各項目に分れてありますので具体的にいえといてもどうにもなりません。学校についてこういう項目についてというのなら調べて申し上げることはできますが、ただちに細かな数字まで申し上げることはできません。

・三五番（松本藤太郎君）

私かいうのは金額をおおざっぱに最初申し上げてそのあと平均したい学校の割り当ての額、それから児童数によるその割り当りの額、こういうものか

三十八年度より小・中学校においては月五十一円強の配分増になってゐる。中学校においては四十二円の配分増になってゐる。

その元がある。だから三十八年度以降に三十九年度は不用額を出さずに執行しましたか、これをお答えいただいたきたい。不用額を出してゐれば、この論議は空転ということになります。

・庶務課長（干場伊右衛門君）

三十九年度需用費においては入札等によつて出た額が残った程度で予算に示されたものは大体購入してあります。

・三五番（松本藤太郎君）

それは不用額としても本当の不用額であつてやむを得ず出たものところ、いろいろに理解して

よろしゅうございますね。

それは今申し上げましたようなことなんで、私は希望して学校を抽出してそういう今まで父兄が負担をしてあるもの費目額それを出してもらいたい。

三十八年度において三十九年度とそれを比較してもらいたい。ですからそうなるとその金か小學校の子供にしては五十一円 五十一円ずつの増になつてゐる。算術ですすからもしそれかかないとするならば父兄が負担しておつた額以外の額の新しい負担課目が出たのかさもなければP・T・Aの会費の運用の方にその金かいたのかあるかはそういうことはないと思いますけれども将来のために心配取っておくということも考えられる。そういうことはおそろくないかと思う。何かそういうものかこの金かどこにいったか

新しい費目というものが出てこなければならぬ。
おそろくこれが全額物価増に当てはまるということでは
ない。そういうことでありますので、千枚やるという
ことは困難でありますので、抽出して公費負担と
父兄に負担させておる。その内容と金額を御
調査していただきたいと思ふ。いかかですか。

。教育長(坪本禧逸君)

大へんむずかしいことになつてきたわけでございますが
そうしますと大体市から学校に配当しますものは
おおづかみな節で予算配分をするわけでございます
います。

節の中は大体学校の校長さんの決断で学校内で
先生方からくるものを学校長の責任においてやる
そういうことでございしますのでそこが一足して

ありますと今年と去年と比べられると思いますが
ある部面では項目の違った去年よりも多く
使うという部面もあると思いますし、すぐに
一定してないので比較にならないと思いますか

・三五番（松本藤太郎君）

むずかしいというけれども、むずかしくなり、算数だ
施策を論じておるのではない。私たちは学校の中の
ことはわからない。父兄がそういつておるから私には
疑問がある。

ですからその内容をお尋ねする。

それが説明されて費用費もこれだけふやさな
ければならぬという。そういうことも出てくる。

そういう点を誤解しないようにやっていったら、
私がお願ひしたのは、今こゝでいえといつても

学校のことはわからないというから、私は即答は望みません。ですから抽出して学校を調査願いたい。

中学校についても二中と三房南、小学校においては館山と神戸、この四つの学校の三十八年度の分と三十九年度さらに四十年年度の予算もできておるでしょうから、そういうものに対する父兄が負担をする内容、金額、そういうふうなものを御提示願いたいと思います。

もちろん学校によって学校差というものもあります。また負担の内容の差も千差万別だと思います。その点は承知してある。だから今いった抽出の学校のものを見せていただければ、大体のものかつかめるのではないかと。

こう考える。ぜひこれをお願いをいたしまして質問
を打ち切りたいと思います。

それに対するお答えをお願いしたいと思います。

・教育長(押本禧逸君)

P.T.A.のたけでいいんですね。

・三五番(松本藤太郎君)

私はP.T.A.という言葉は一ぺんも使いません。

・父兄負担 公費を父兄が負担をしているということ
とっております。ですから場合によればP.T.A.に市は
補助を出して監査対象にしたいという考えも
ある。それでは学校の教育のことだからいけない。

市が公費でやるべき教材なり教具なり光熱
水費なり理科の材料なりそういう大事なものの
まで白黒というようなことも聞きますけれども

そうしたようなどうしても公費でやらなければならぬというものが父兄負担になつてあるかどうかということなんです。それは当然、公費でやっておくさらに学校差があり富裕の地区とそうでない地区があつて口にすることもできない地区もある。それを教育委員会ははどうするの、ということもある。おわかりですか。

・教育長（押本禧逸君）

その問題は今後教育委員会でも具体的に調べなければならぬ項目だと思つています。

来年度の予算にはそうした基礎のところからやろうということを考へてゐるということでございます。四つの学校は大へんで大きな負担でございますが、どうしてもやれというならやらざるを得ない

わけでございますが進めてみようと思います。

。三五番（松本藤太郎君）

不可解なことなんですが市長さんにお尋ねいたしますが私はこういうことを議会というのはひかえてあった。

市長さんの方で徹底的にそういう点は究明されておるべきだ。

抽象的な教育委員会の回答だけであった。こういうふうに感じただけですか今やるのに非常に困るということなんですか人の面とかそういう面で困るということなのか。どういうことかわかりませんがそういう調査をするために必要だということに對しては市長さんに御配慮いただきたいと思ひますかいかででしょうか。

。市長（本間譲君）

教育委員会の事でやってもらわなければなら
ないけれどももし何でしたらこちらからも
お役手伝いをしてあげたい。

。三五番（松本藤太郎君）

約束していただけますね 了解

。議長（黒川佐太郎君）

午前の会議はこれにて休憩いたします。

午後零時 十五分 休憩

午後一時 十八分 再開

。議長（黒川佐太郎君）

午後の出席議員数 二十九名

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第二報告 第一号第二号 一括上程いたします。

(書記朗読)

報告第一号 昭和三十九年度 館山市継続費繰越
計算書の報告について

報告第二号 昭和三十九年度 館山市繰越明許費に
係る繰越計算書の報告について

。財政課長(長谷川 弘治君)

報告第一号及び二号について御説明申し上げます。

報告第一号は継続的行なわれます神戸小学校
の校舎の改築事業の三十九年度分が終りま
したので法律の規定に基きまして繰越計算書
と調整し御報告申し上げる次第でございます。

内容といしましては表に印刷してあります通り

でございまして三十九年度支出額が千九百九十九万四千円でございます。翌年度に繰り越しましたます額が千五百六十七万四千円ということになります。

この四十年度に繰り越されます支出額の特定財源は国庫支出金二百九十二万八千円地方債八百万円でございます。一般財源四百七十六万四千円ということになります。以上で報告第一号の説明を終ります。

報告第二号の説明を申し上げます。

これは第四中学校の屋内運動場の改築事業でございますが、三十九年度の会計年度中に完成できませんでしたので繰越明許費として明許費と考えたわけでございます。

内容といしましては表にあります通りでございます。金額は千百五十万円でございまして、会計年度中の完成度合が八割でございまして、その残額四割程度を四十年度に繰り越して使用したい。かように若えて規定によりまして繰越計算書を提出して御報告申し上げる次第でございます。

議長（黒川佐太郎君）

御質疑ないようでございますので報告は以上をもち終ります。

議事についておはかりいたします。

日程第三議案第四十四号から議案第五十五号までの各議案はこの際一括上程し本日はこれ以上これか内容説明のみといしたいと思います。

これは御審異議ありませんか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)

異議なしと認めます。よって決定いたしました。
議案第四十四号乃至第五十五号を一括議題といた
します。

・三三番(三沢節君)

この際朗読は省略いたしました。ただちに内容
説明をしていただきますと思います。

(「賛成」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)

ただいまの動議に対して賛成の声がありました
これに御異議ありませんか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長（黒川佐太郎君）

異議なしと認めます。よって動議は成立いたしました。
朗読省略と決しましたので、ただちに説明に入ります。

・調査課長（高木哲三君）

議案や四十四号について御説明申し上げます。

これは所得税法及び法人税法の全面改正が行なわれまして、地方税法についても条文整理について改正が行なわれ、これに基いて本市市税条例の条文整理を行ないますのか、この改正のあともなうのでございします。

二十二条は地方税法二百四十九条の五項の改正によるものでございします。市民税の納税義務者のうち法人にかかるものでございします。

二十四条でございしますか、これは一項三号中、二十万円を

「二十万円」に改める。障害者、未成年者、老年者、または寡婦について三十九年度まで二十万円以下のものは非課税ということになっておりますが、最近消費者物価等の上昇によりまして、一畝地における生活基準が二十一万七千円になった関係で、二十三万に改正したものでございいます。

あとは所得税法の全文改正により項かかわってきたのでございいます。三十六条は申告書の様式でございします。これは地方税法の施行規則の各申告様式にかわつたのでございします。

四十八条これは法人税の全文改正による地方税法三百三十一條の八法人等の市民税の申告納付の条文の整理によるものでございします。その公有水面埋立法、二十三條の規定によるものでございしますか。

都道府県または国が竣工通知前に埋立地等を都道府県または国以外の用に事実上使用させている場合、事実上使用税と負担させる条文中でございます。

土地改良法第八十七条、これは埋立地、干拓地に対して、まして土地改良法によつて作つた土地でございます。まして埋立地とか干拓により造成された土地で、農業等に使用します用地でございます。そして、こういう土地におきまして、これは収益を目的として使用する人の課税の対象から除外するということでございます。

五十七条、地方税法三百四十八条の固定資産税の非課税の範囲を規定したものでございます。

「老人福祉施設」が加わつたわけでございます。

八十二条でございます。か、第二号、三千円と四千五百円

これは軽自動車の軽四輪でございます。税率を改正したものでござります。

八十七条 九十一条、これは八十七条につきましては申告書の納税義務者の住所を確認するため、住所証明書を申告書に添えて出すということになっております。

九十二条は軽自動車税の非課税とするものの公共の用に供するものの規定を整理したものでございます。九十六条電気加税の非課税でございます。

百五条 百十条、これも地方税法の改正によるものでござります。

附則の第十項中「法三百四十九条の三 第十項」これは日本放送協会の固定資産税の課税標準の特例を設けたものでござります。その下に日本鉄道建設公団の

課税標準をきめた十七項を加えたのてございます
あとは地方税法の改正により条文が改正されたの
てございます。

・保健衛生課長（池田亮山君）

議案第四十五号について御説明申し上げます。
本案は国民健康保険税条件の一部改正でござ
います。

まず第二条の改正でございます。「四万円」を「五万円」に
改める、これは当市の保険税の最高賦課額が
従来四万円で打ち切りになっておるわけでございます。
四十年度は保険税の増額が見込まれております
ので従って個々の負担額もそれぞれ増加してくる
わけでございます。最高限度額をそのまま据え
置きますと賦課額に低所得者と高額所得者

のバランスを欠くおそれがありますので限度額を
一万円引き上げて五万円にしようというものでござい
ます。なおこの五万円は地方税法で規定して
あります。最高限度額と同一でございます。

次に十二条の改正でございます。加「一万五千元」を
「二万五千元」に改める。これは低所得者層の
軽減措置の拡大でございます。

十二条の第一項第二号の該当し、いわゆる九万円
プラス世帯員一人について一万五千元を乗じた額
を越えない場合は、均等割と平等割において
十分の四を軽減するという規定でございます。
世帯員一人につきまして一万五千元を二万円に改める
軽減の範囲を拡大する。

附則でこの条例の適用は昭和四十年年度分から

適用するというふうになっております。

。農林水産課長（伊藤幸太郎君）

四十六号につきまして申し上げます。かねてから申し上げておりました本市の水産振興審議会の設置条例案でございます。

第一条でございますが、これは本市の水産業の振興をはかるべきこの審議会を設置するのだという条文でございます。

第二条で所掌事務を規定してございますが、これは市長の諮問に応じまして計画の調整あるいは実施につきましまして必要な調査あるいは審議を行なうのだということでございます。

組織といたしまして審議委員を八名をもって組織したいというところでございます。

八名の内訳でございますが、市議会議員の中から八人、漁業団体の代表者から四人、学識経験者から二名以上八名の委員をもって、この審議会を組織したいというところでございます。

以下三項から六項まではそれぞれ委員の任期、補欠委員の任期、あるいは非常勤だというように、各条文でございます。

第四条 この審議会に会長を置きたい。会長は委員の互選によっておのづかいていというように、会長に関する各条文でございます。

第五条は会議について規定したわけでございます。これは会議は会長が必要に応じて招集し、なお会長が会議の議長になるの、たというところでございます。

二項、三項につきましては、会議につぎましての
条文を定めたいのでございます。

第六条、この条例にきめましたほかに必要なことな
つぎましては審議会に關しては必要な事項は市長が
別にきとめていきたいということでございます。以上この
条例は公布の日から施行していきなうというわけで
ございす。

よろしく願いたいと思ひます。

・秘書課長（小倉澄男君）

議案第四十七号につぎまして御説明申し上げます。

これは本年の四月から県立となりました館山高校の
職員に對しまする給与条例が現在まで市の教育
委員会の学校職員給与条例というもので高等
学校職員と幼稚園職員の条例が規定されて

ありますが、県立移管に伴いまして、高等学校職員に關する部分のものを削るということとを別表第一を取つてしようというふうなことを高等学校關係の部分の給与条例を改正するというものでございます。

。社会教育課長（利田正男君）

議案第四十八号を御説明申し上げます。

従前館山市公民館が七ヶ所、西岬、神戸、富崎、

館野、九重、邦古、船形、邦古船形分館に關しましては

邦古のところに兩地区を含めた分館でございまして

ので、それを各地区に分館運動を活跃なうしめる

ために第二系第三項中「邦古船形分館」を「邦古分館」

に改めるということとでございまして「船形分館」とさ

「船形分館」四、五番地の二「船形小学校の元幼稚園

舎でありまして、今家庭科教室であります。

二十二坪五々の独立教室を学校教室を妨げない
範囲でお貸し願つてここに分館を設置したい。

「北条分館」については「北条一七三五番地」に置きたい
という事でございまして、この改正でございまして
これを公布の日から施行したいという事でございします。
。秘書課長（小倉登男君）

議案第四十九号について御説明申し上げます。
非常勤の特別職の職員、報酬及び費用弁償の
一部改正でございします。か財産審議委員会委員の
設置がきまつたときに七百円の日額報酬をお願いしたい
育少年問題協議会の委員も七百円をお願いしたい。
それから年額報酬表の方に学校薬剤師、学校
保健法に学校薬剤師これと年額二千円に
願ひたいという事でございします。

統きまして議案第五十号でございますがこれは館山市
職員の退職手当に関する条例かまた存置してある
のでございすかこれは昭和三十八年四月一日議決
いたしました千葉県市町村職員退職手当組分に
加入いたしましたのでこの条例は必要なくなりまして
これを廃止したいというものでございす。

。庶務課長（山口実君）

議案第五十一号について説明申し上げま。

去る三月定例会において新たに生じた土地の確認に
ついて議決を得た左記の表の土地について別紙の通り
県の告示がなされたのでこれらの土地を地方自治法の
規定によりまして館山市の区域に編入しようとい
うものでございす。

別表の二つの土地については大字相浜、新田この土地に

ついでには 大字相浜松崎に編入しようというものでござります。

・衛生施設課長（吉田耕一君）

議案第五十二号について御説明申し上げます。

本議案につきましては、清掃条例の一部を改正していただきます。このように考えるわけでございますが、別表の汚物取り扱い手数料の三を次のように改めるものでござります。

従来旧市の一般家庭の改み取り料金一戸容量制と
もちまして料金を決定いたしておりますが、一般住民から
の御意見もございまして、今回諮問機関でござい
ます審議会等の諮問、答申に基きまして市長の
方で検討を加えました結果、今回一般家庭につきまし
ての算定の基礎を現在表にありますような

人数割に改めようとするものでござります。おのあのの
 人頭割四段階を三に一般家庭というふうにみなし
 まして単位を一月ということでおのあのこのような
 料金に改めて参りたい。このように考えるわけで
 ござります。なお旅館とか劇場事業所というような
 大口関係につきましては従来通りの容量制をもち
 まして実施して参りたい。このように考えるわけで
 ござります。

次の備考でござりますが、これに伴いましてこの備考
 も加えまして行なつて参りたい。このように考えます。

一は運搬料金の計算につきまして一般家庭の構成
 人員というふうなものを使つたわけがござります。

いろいろ調査検討の結果乳児でござります。一才未満
 のものについては家庭構成人員に加えないというふうな

考え方をもちましてここに算入しないという規定を
入れたわけでございます。

それから大体一回につきましておのゝ料金を
決定するわけでございます。大体二月二回を標準として
取込みを行なうていくということを原則としていきたい。
二回以上の取込みについては一回をますことに五十円
を加算して料金を徴収していただくというふうに
改めたい。なおこの条例の施行につきましては七月
一日から実施したい。このように考える次第でござい
ます。なお一般以外の旅館劇場事務所という
ような面につきましては実際には七月一日からの施行と
いうもの相当地難かありはしないかという点も
ござります。そうした面につきましては許可業者と
年間契約あるいは月契約というような場面も

でございますので、実際上の運営につきましては、市長の方と業者の話し合いをきめまして、一日も早く実施に
もっていくというふうにいたしたい。このように考えて
本案を提出したい次第でございます。

・消防署長（岩田実君）

議案第五十三号について御説明申し上げます。

館山市消防委員会条例でございますが、現在
制定してあるのでございします。現在のものは昭和
二十五年に制定されたものでございまして、十五年経
過いたしました。かその間、一部改正というふうな
ものも行なわれませんで、現行のものは、実情に
合わず運営上適当でないという個所が生じた
ためにこれを廃止いたしまして新たに委員会
条例を提案した次第でございします。

第一条は委員会の設置及び目的をうたつてございませう。
第二条は所掌事務でございまして市長の諮問に
応じ消防に関する重要事項について調査及び
審議を行はうということになっております。

第三条は組織でございましてこれは現行のものと
同じでございまして委員は十二人をもって組織すること
なっております。

市会議員の中から四人消防関係者の中から四人学識
経験者を四人ということになっております。なお任期
補欠そういったものを規定してございませう。

第四条は委員会の委員長及び副委員長について
うたつてございませう。

第五条は会議でございませう。

第六条について細部事項を委任するということになつて

あります。附則において施行期日、現行の消防委員会条例の廃止について規定してございます。以上よろしくお願いいたします。

・秘書課長（小倉澄男君）

議案第五十五号について御説明申し上げます。

昭和四十年六月に支給いたします期末手当の特例追加支給の条例でございます。これは先般来職員組合等よりもいろいろ要求がございました結果、いろいろ話し合をした結果、正規であります十一と三、十四割に対して二を加えるということによりまして、おまとめしまして本件を提案した次第でございます。

第二条におきまして、一条は目的、第二条は一般職員の期末手当に二を追加するという条文でございます。

第三条はこれに関連いたしましたして、議会議員の方々に

対するニ増加の分でございます。

第四條に市長 助役 收入役その他の一般職員の期末手当をニ増額追加支給するということをここにお願いする次第でございます。

財政課長(長谷川広治君)

議案第五十四号について御説明申し上げます。

四十年度の一般会計の補正予算第一号でございます。第二條は今回の第一号補正によりまして総額七百五十万八千円を追加いたしました歳入歳出それぞれ七億三千二十八万二千円としたことでございます。

一條の二項といたしまして、追加額の及び補正額の内容は別紙の通りでございますというところでございます。

なおその中に歳入中第七款第三項第一目第五節の公明選挙推進委託料を選挙啓発委託料歳出の

今の第二款第一項第二目 公明選挙費を選挙啓発費に改める。これは過ぐる議会にのみきまして、それやれ法の改正かございまして、ために項目の名称を変更するといふのでございします。

第二条は地方債の追加は第二表のように補正をいたす。かように考えて提出をしたものでございします。

地方債の補正は都市計画事業費として五百万円の起債を交渉いたしてございします。その額を増額補正をいたすわけでございます。

なお細かい項目にわたりましては、歳出の部から御説明申し上げたいと思ひます。

二款総務費のうち総務管理費といたしまして十節の交際費百六万円、これは姉妹都市に対する交際費でございます。

十九節負担金九万円これは千葉県南方戦没者
慰霊塔の建設費でございます。これは県知事か
会長になりました県下の各分野からそれなりの
まして沖縄本島の摩文仁に千葉県出身の方で
南方に戦死した方の慰霊塔を建設したいとい
うことで総経費千三十九万円これを県が四百三十九万
市町村で四百万円寄付金二百万円というよう
な財源内訳であるように聞いております。そのうち
当市に割り当てて参りましたものか九万円でございます
これを七月一ぱいに御負担いたさたいということで
ございますので今回追加をいたしてございます。

・市民課長(羽山房雄君)

十日の諸費二十三節の償還金利子及び割り引き料
これにつきまして御説明申し上げます。

今回十五万円の追加をお願いいたしましたか、これは市税等還付金になっております。大体法人市民税の還付金をここに計上したものでございす。よろしくお願ひいたします。

・選管書記長（大嶋重義君）

四項の選挙費の参議院選挙費について御説明申し上げます。今回十九万円の補正でございす。

今度のおもなものは臨時啓発費でございす。

それで選管といたしましても協力団体であります。

推進協議会等と協議いたしましたおもな事業

と大体次のようなことを計画いたしております。

その一つが自転車による啓発事業が一つとそれから

広報宣伝による啓発事業、強調月間の事業

三つに分けたわけでございす。

予算でございますが、この十六万一千円のは
一つのひも付きでございます。十六万一千円の内訳は
ここにかかれていますように、各種の事業のものを
細分しましてここに計上したわけでございます。
賃金は広報車に乗るアナウンサー、これは五千円
報償費、二万三千円、パレードの宣伝に乗る人たちの
謝礼、一万二千円、有線放送の謝礼、六千円、小旗
二百本作りましたか、各市町村内の官公庁、特に交通
業者等にお願いしたので、その謝礼でございます。
需用費関係でございますが、九万七千円、消耗品は
一万七千円、小旗などが入っております。燃料費は
かすりン代でございます。

食料費三万円、印刷製本費、これは広報等の発行費
でございます。役務費、四万四千円、広報等のゆりかえ

一万五千円、十四節の使用料で自動車の借り上げ料、パレードの際の借り上げ料三万円、これか十八万二千円の
内訳でございます。

なお別個に郵便料として三万九千円御承知のように
補充の公示制度に切りかえられたわけでございます。
今度の選挙につきましても申し出がたくさん受け付け
ております。そうした受け付けたものに対して前住所
の市町村の選挙管理委員会に通知しなければ
ならないというとかでござるためでございます。

補充選挙人名簿に登載したものを今までの
市町村に通知を完了するということも出て参つたので
あります。さらに今度の不在投票、航空隊員の
相当異動がございました関係でそれらのものは
遠隔地でございますのでほとんど速達でもって

郵送してあるような関係でございます。郵便料の不足が生いたので二万九千円の追加をお願いする次第でございます。

庶務課長（山口実君）

統計調査費について御説明申し上げます。

今回三十六万をお願いいたしました。貸金において三十二万これは本年行なわれます国勢調査に関する臨時用人でございますして一応五八分一日四百二十円の割合でもってお願いいたしました。

次の八節一万七千円報償費、県から工業調査費の委託費として参ったものを計上した次第でございます。

次の八節報償費基本調査費といたしまして県から委託料が参りましたので調査員の報酬

として八入分ここに計上したのでございます。

・衛生施設課長（吉田耕一君）

第四款の衛生費について御説明申し上げます。
 三日のし尿処理費で今回百十六万円をお願いしよ
 うというものでございます。いろいろ長い間
 御迷惑をかけておた問題でございます。
 し尿処理場の処理水のろ水確保がでま
 した。ので今回この費用をもちまして配管
 ポンプ室等の整備をいたしまして操業の万全
 を期して参りたい。このように考えてお願い
 したわけでございます。なお配管等につき
 ましても現在のポンプ室から八百メートル
 あまりの地域の井戸のボーリングをいたし
 ましてそこから給水ということでございますので

配管費等がおもなものでございましてポンプ室については一坪程度のもを建設するといふ若え方で両者合わせまして、これをお願いいたした。このように考える次第でございます。

・土木課長（新井重助君）

八款土木費のうち都市計画費について御説明申し上げます。

今回千三百四十九万六千円の更正でござります。その内訳いたしましたて一目都市計画総務費におきまして三十六万六千円の減額これは三目の都市下水路が今回国庫補助の対象になりましたので、それの事務費計上したものでよいので都市計画下水路の方に回したものでござります。

街路事業費九百八十三万の追加でございますが、これは御承知の昭和橋かけかつて工事費千二百万の追加でございます。街路工事の事業として二百十七万円の減額をみておりますが、これは駅前から熱海荘に至る間の改良費、道路工事改良費の中に下水路と道路工事と諸に逐行するということで二百十七万計上してあったのであります。今回三目において都市下水路として独立して施行することになったのでその費用を都市計画下水路の方に回すという考え方でここで減らして九百八十三万円の追加でございます。

三目都市下水路これは当初三十八年度から三十九年度も続けまして六軒町排水路の

改良工事をほどこして参つております。

三十九年度末までに六軒町の踏切まで施行しております。それから駅前の間を本年度百十メートル施行する予定で当初の二百四十万計上してありますが、今回補助の対象になるということだったので六軒町踏切から駅の構内二百八十三メートル一気に工事をほどこしましてこれが完成を期しております。

その費用といたしまして四百三万二千円を計上いたしました。六百四十三万五千円の工費をもちまして、この改良を全部終りたい。かように考えてここに計上した次第でございます。

これに伴います国庫補助は三分の一でございます。なお街路事業費におきまして県の補助金か

二百四十万 起債といたしまして五百万計上いたしまして以上の工事を完成を期したい。このように考えて計上した次第でございます。よろしくお願いいたします。

消防署長(岩田実君)

九款消防費でございますが、百一万二千円の補正をお願いする次第でございます。

一目の常備消防費といたしまして三万五千円

これは負担金でございますまして御承知のように

消防本部付属の自動車整備工場でございます

去る五月十日陸運局から正式に認可を受け

まして車検が工場で行けるといふうになった

のでございますが、陸運局の外部団体と申します

が協力団体と申しますか、自動車整備振興会

というのかございましてこの役員の方々にも
認可なる前にいろいろお骨折り願ったので
ございます。宮公庁である以上こういった団体に
入らなくてもいいのではないかというふうに考えた
のでございますか、ほかの市内の状況を調査していま
しても国鉄の本郡館山駅の整備工場もやはり
加入しておるそうでございましてやはり今後円滑に
運営する上にこれに加入した方がいいということに
なりました。入会金として三万円、月々の会費として
まして五百円、七月から年度末まで九カ月分とした
しまして計三万五千元をお願いする次第でございます。
それから二目の非常備消防費九十七万七千円で
ございます。

公務災害補償費でございます。消防団の第二分団長

てございました田村氏が本年二月二十二日たまたま
春の火災予防運動の打ち合わせ会議を消防本部
の会議室で行なつておりました際にホヤかござ
いまして出勤いたしました。帰つてこられて気持ちか
わるくなつて救急車で送つたのでございしますが重体
を続けまして約一週間 なくなれたわけではござ
います。

これに対する殉職として公務災害補償をお払い
するわけではございます。

遺族補償費として九十万、葬祭費として五万四千円
その他療養補償 会計九十七万六千八百八十四円で
ございます。会計いたしましたしまして今回の補正百一十二万円
でございます。

。財政課長（長谷川広治君）

以上歳出合計千七百五十一万八千円の追加でございますか

歳入に移りたいと思います。

歳入といたしましたは、それぞれ歳出の項で御説明いたしましたか国庫支出金関係で都市下水の二百十萬、昭和橋のかけかえ工事費の補助として県の補助金二百四十萬及び選挙各種統計補助金として県の委託金か三十五萬一千円それに昭和橋のかけかえ工事費として起債の増額五百萬

雑収入といたしましたして電々公社の市道の掘りかえし、ケールブルを埋設するために掘りかえしてあるところでございますかこれの負担金として百四十九萬でございますので六百十三萬七千円が不足財源ということになります。

三十九年度の出納閉鎖が終了しまして、現在換算中でございますが、四中の繰り越し、継続費を除きまして大体三千三百万円繰り越されるような数字に相なっておりますので、その中から六百十三万七千円を計上いたしまして財源としたわけでございます。

追加後予算総額七億三千二百八万一千円ということになります。

以上予算の説明を終わります。

市長(本間譲君)

実は協議会でお願ひする考えでございますが、予算説明の方か早くなりましてしたのでちやうと申し上げておきますか、姉妹市の交際費としまして百六万円をお願いした次第でございますが、

この前協議会の際にもいろいろ御意見見も
ありますし、その後またいろいろ御意見を
伺ひまして結局百六万円お願いすることになつた
わけでございます。

その内訳としましては、秘書課長が同道いたし
ますので、これは正式の招待でございますから市長
の秘書としていきます関係上、実費だけ
支弁した方がいいんではないかという御意見もあり
ますし、また職員でありますからいつもいつも

犠牲をはらわせるということとは本意ではありません
から、実費として六十六万円を秘書課長の旅費と
しまして、交際費のうち、それから十万円は持つていく
みやげというところでございます。みやげ品としては
とうとうこれは石井さんに勉強していただきまして

とうろろを送ることになったわけでございます。
 その他貝細工の大名行列と釣ざおという
 ようなものでございすか、それから全部で
 八人で参るわけでございますか、私と秘書課長
 は別としましてあと六人の方々に対しましては、
 やはり民間使節という役割もあるわけだ
 らうございまして、この方に対してもある程度の
 経費を持たなくてはならないということも
 考えました。最初から自費でお願いしたい
 ということであつた関係上、せんべつとして
 一人五万円ずつ三十万円さし上げたり、という
 内容であるわけでございます。

このように大勢の方かいかれることは姉妹市
 館山市との交流、親睦ということでは非常に

意義があるんじゃないかと考えて非常に喜んでおるわけでございます。

十分の目的を果して参りたいと考えておるわけでございますして百六十万円の内容はこういうことでございまして、協議会を開かずにここで説明にかえる次第でございます。

・議長（黒川佐太郎君）

以上で上程されました議案の説明を終ります。
本日の会議はこれにて延会いたします。

なお明二十日は議案審査のため休会とし
次会は明後六月二十一日午前十時開会と
いたします。

その議事は本日に引き続き議案の審議を
行ないます。

午後二時二十七分

延会

本日、會議に付いた事件

一 開会

一 議長報告（出席説明者）

一 會議録署名員、指名

一 会期、決定

一 市長議案提案説明

一 通告質問

一 報告第一号、第二号

一 議案第四十四号乃至第五十五号

内容説明

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 祿郎

秋山 大三郎

田村 源治郎

望月 照正

辻田 実

石井 正

黒川 佐太郎

菊井 敏博

志村 信作

小沢 恵太郎

関 武夫

西村 真次

藤田 好治

保科 忠夫

江田 徳太郎

君塚 喜三

中村 省吾

島野 茂樹郎

荻生田 七郎

鈴木 孝

鳴田 繁

山田 教宇

鈴木 市蔵

安藤 亀吉

安沢 徳順

三次 節

高橋 文治

山本 昇

松本 藤太郎

山口 康

大席議員

安西益男

